

お客様アンケートご報告

拝啓 貴社ますますご盛栄のこととお喜び申し上げます。
毎々格別のお引き立てを賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、この度はご多忙の中、弊社業務に関するアンケート調査にご協力いただきまして、誠にありがとうございます。

12月分アンケート調査の結果について集計致しましたので、いただきましたご意見の一部をご紹介します。

ご意見①

「大掃除等でコーキング剤が取れてしまった場合はどうすればいいですか・・・。」

弊社のコーキング剤はゴキブリの習性に基づいて様々な箇所に細かく施工しております。その際に施工した箇所の材質や塗布具合によって、取れてしまう事も稀にあります。弊社としましては、今後より取れにくい様にコーキング剤の質、施工技術の向上に努めてまいります。

また、多少取れてしまう事も配慮して、細かく補える様に施工しておりますので、ご安心ください。

ご意見②

「定期的な駆除が必要かと思うのですが・・・。」

こちらは、新規施工に入りまして一ヶ月点検(効果測定)前のお客様よりご意見いただきました。弊社のメインに使用しているFCCコーキング剤は、一年間の効力があります。噴霧や散布に使用する薬剤は効果が持続しない為、什器奥に潜むゴキブリまではなかなか一度の作業では根絶が難しいです。

しかし、FCCコーキング剤はその長い効力により、施工後も長くゴキブリ駆除効果があります。さらに、弊社の施工員はゴキブリの潜みやすい箇所や通り道を熟知しておりますので、店内の適切な箇所に細かく施工します。

今回ご意見いただいたお客様にも、弊社の駆除方法を改めてご説明させていただき、ご理解いただきました。

もちろん、その他ご不安な点がありましたら、年間保守契約でございますので、お気軽にお申し付け下さいませ。

ご意見③

「ゴキブリの害について教えて欲しいです・・・。」

ゴキブリは細菌やウィルスの配達人と言われてます。その中でも特に現在可能性が大きいのは食中毒原因菌であるサルモネラ菌の媒介でしょう。

それ以外にも赤痢菌、小児麻疹ウィルス、スタフィロコッカスなどもあり、最近では胃ガンの引き金とされるピロリ菌もゴキブリの糞を媒介して人から人へと感染している可能性があると言われてます。

そのような問題が起きないよう、弊社では店舗様のゴキブリ0に努めております。



一部でございますが以上の様なご意見・ご指摘をいただきました。いただいたご意見・ご指摘は全て真摯に受け止め改善してまいります。

どうぞこれからも、忌憚のないご指導・ご鞭撻を賜ります様、よろしくお願い申し上げます。

また引き続き、皆様からいただいたご意見等をご紹介しますまいりますので、重ねてよろしくお願い致します。

敬具

昨年2月よりアンケート調査を毎月行っております。
引き続きご協力いただければと存じております。

アンケート専用FAXのフリーダイヤルを設置しておりますので、こちらをご利用くださいませ。

お客様アンケート
お問い合わせ専用FAXフリーダイヤル

見ないムシ

0120-32-3164

※一部八県以外はご利用出来ません。
(東京・神奈川・千葉・埼玉・栃木・茨城・群馬・山梨・静岡)

FCC News

2016年01月号 No.141



Index

お客様アンケートご報告

新年のご挨拶

季節のムシ暦(97)

焼肉ビジネスフェア2015 ご案内

生活の豆知識

株式会社FCC



〒251-0043

神奈川県藤沢市辻堂元町4-3-32

Tel 0466-31-3164

Fax 0466-31-3174

URL <http://www.fccsystem.co.jp>

E-mail info@fccsystem.co.jp

新年のご挨拶



株式会社FCC サービス部課長

水島 聡

新年明けましておめでとうございます。
旧年中は、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

FCCとるる湘南が一体となり施工を行わせていただき、早いもので4年目を迎えます。昨年は、一昨年から引続き対応の不備や駆除率の低さで、お客様にご満足頂ける成果を残す事が出来ませんでした。私自身も、認識の甘さやアフターケアの気持ちが出来ていないように思います。御迷惑をお掛けしまして、大変申し訳ございませんでした。

施工技術はもとより、気持ちの面でも再度原点に立ち返り、施工部内の技術力の均一化を図り、より一層のレベルアップを目指して日々努力を続けて参る所存です。

また、人員も大幅に増え組織体制も確立されますので、お客様に細かなサービスと満足できる結果をお届け出来る様、精進して参りますので、本年も何卒宜しくお願い申し上げます。

新年明けましておめでとうございます。
旧年中は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、旧年中は人員体制の不備や個々の意識の問題から、点検やサービス面に於いてお客様にご迷惑をお掛けすることが頻りに発生いたしました。一昨年からの歪みを昨年も引きずったまま終始した一年でした。この場をお借りして深くお詫び申し上げます。

対応面の悪さ故に、業界一を誇っていましたがお客様リピート率も昨年は低下しました。お客様満足が低下していると判断しています。マーケットの弊社への評価はリピートに表れます。

本年度は原点に立ち戻ります。市場では拡大よりも、私はお客様満足や技術力で勝負したいのです。昨年度中に体制は既に整えました。優秀な中途社員の採用、新卒社員や留学生の増員も実施しております。

技術力も必ず取り戻します。以前私が一人で開業していたころの様な、最後の砦になる様な会社です。お客様満足面では、昨年度後半に何日もみんなで話し合い、共通言語“全社スローガン”を作りました。

それが…「守ります。守らせてください。」です。この‘守る’は約束を守る、お客様の衛生環境を守る、会社の理念を守る…等の多様な意味が含まれています。

本年度、弊社は変わります。皆様方の期待に応えられるように全力を尽くして参る所存です。何卒よろしく御願い申し上げます。



株式会社FCC 経営企画

飯塚 義典



新年明けましておめでとうございます

旧年中は格別のご厚情を賜り、誠にありがとうございました。

様々な社会的、環境的な変化により多様な害虫、被害状況も多岐となってまいりました。また、年々高まる衛生意識に日々ご苦勞されておられることと思います。

皆様のお声に耳を傾け、円滑なコミュニケーションのもと、いかにお客様のお役に立ち、ご信頼いただけるか、施工・内務スタッフとともに社内一同、日々模索しております。

皆様によりご満足いただけるよう、新たな気持ちでご提案に臨みます。本年も宜しくお願い致します。

明けましておめでとうございます。

旧年は格別のご厚情を賜り、誠にありがとうございました。

昨年は点検の遅れ等の問題を多々起こしてしまい、お客様にご迷惑をおかけ致しました事をお詫び申し上げます。

この失敗を繰り返すことのないよう初心に戻り、改めてサービス面・技術面更の向上を図っていく所存です。

まだまだ未熟な私ですが、本年も一步一步進んでいく為努力し、少しでも皆様の力になれる様、精進して参ります。

本年も宜しくお願い申し上げます。



株式会社FCC 施工部係長

三留 利彦



平成28年1月1日
株式会社FCC
代表取締役
深澤 正司

冬場の招かざる生活の場の悪戯者

紅葉の盛りが過ぎて、外気が冷えて来る候となると、台所、厨房の大型ゴキブリは、その姿を消す。しかし、それに代わるかの様に、もっと性格の悪い小動物が、こっそりとやって来る。

それは、普段では、気にしないが、人の生活に依存する、「ネズミ」と称する厄介者である。彼等は、暖い場所が好きで、冬場になると家屋内に侵入して来るのだ。この現象の代役は、ゴキブリ退治が、ネズミ退治に代る、駆除作業の「更衣（コロモガエ）」なのである。

だが、このネズミと言う小動物は、人との付き合いの歴史は非常に古く、人類が農耕を始めて、食糧を確保するようになってからである。

一言で云うと、それは「弥生時代」からのお友達と云うことだ。従って、私達の生活の場では、ネズミに纏わるお話が、きわめて豊富である。また、これは、生活の知恵の宝庫である。

多くの人には、幼少の頃に「おむすびころりん」の昔話を聞いた事や「ネズミの嫁入り」と称する自然現象の話などが、記憶の底にあるだろう。また、わが邦では、昔から「ネズミ」は、大黒様のお使いとされ、お金持ちの象徴で、好意的に見られていた。

しかし、ネズミは、人の生活の場の都市型が進み、流通が変化する中で、有害性が大きく変わった。

ネズミの有害性については、以前にも、このシリーズ(2014年9月、81回に、見直したい動物由来のペスト)で紹介したが、今回、若干、視点を変えて話を進めたい。

ネズミの被害は、なんと云っても第一に食害が、上げられる。何にしる、雑食性であつ家庭内、飲食店舗、食品売り場、食品工場、各種工場、倉庫、ペットフード等といった所で、物を齧り、汚損などの被害をもたらす。

だが、クマネズミが、ゴキブリやその他の害虫類を食べているのは、余り知られていない。

では、私達の身近には、どんなネズミが、居るのだろうか。この事は、意外にあまり知られていない。

そもそも、ネズミは、齧歯目のネズミ科に属する繁殖力の旺盛な動物で、一般的には、屋内性の「家ネ」と野外性の「野ネ」に都合上、大別しているが、分類学的なものでは無い。実際に、生活の場で問題になるのは、クマネズミ、ドブネズミ、ハツカネズミの3種類である。

これらが、与えられた環境条件を上手に活用して、それぞれが、活動領域を確保している。このようなネズミは、英語で「ラット」と呼ぶものと「マウス」と称されている。その前者は、やや大型のクマネズミやドブネズミを指し、後者は小型のハツカネズミを云うようだ。

では、ネズミの大きさであるが、最も大きいドブネズミの体長は20から26cmである。また、屋内に多いクマネズミは、おおよそ17から20cm以下で、最も小さいハツカネズミが、10cm以下である。

このハツカネズミは、小さく体重も30g程度だが、直径1cmの穴があれば、自由に行動するので、始末が悪い相手である。

このネズミ達の生活で、特徴的なのは、繁殖力の大きい事で、一匹の雌が1年間に5回から6回も産仔することだ。

また、これが、1回に10匹前後も産むので、その増え方は大変なものである。世に、「ネズミ算」と称する言葉があるが、このネズミの増え方から発したものである。

こんなネズミの厄介なのは、齧ると云う直接的な害もあるが、それよりも1回の摂取量はすくないが、回数が多く、脱糞量の多いことである。

その脱糞の状況は、1日におおよそ50個前後であるが、その1個の糞に多量のネズミの毛が数百本も、含まれている。これが、何にかの拍子に、食品類などに紛れ込むと、混入遺物で大騒動を起すのだ。糞害は、たかが「糞」では済まない、「糞害」なのである。

冬季に、屋内に潜入したネズミは、様々な悪戯をもたらす、厄介者なのである。

こんな、ネズミとの戦いは、人の生活のレベルの向上と共に派生したようだ。その記録が増えたのは、江戸時代からで色々と工夫がこらされていて面白い。

最初は、神仏の霊力をたのみ、御破い、御呪いをし、その内に、「ネコ」を使いだした。町が栄え、文物の流れが増すに従い、ネコや霊力では、太刀打ちが困難になり、薬物による退治が登場した。

その歴史は、江戸時代の「石見銀山鼠取薬（イワミギンザンネズミトリグスリ）」の使用に端を発している。この製分は、ひ素化合物の「亜ヒ酸」であった。

ネズミ退治が、今日的になった始りは、どうやら「ペスト」の流行が、問題になってからである。

それは、明治29年(1896)に、わが邦にペストが上陸し、明治32年から関西、東京に蔓延してからである。

今から120年前からで、「猫イラズ」に始って、今の「粘着シート」に至った。しかし、問題解決には、今だに、たどりつかない。

どんな取り組みをして来たのか、その原点をたどってみよう。

昭和20年、終戦後は、市町村単位で対策が進められるようになり、そのための統一的な指導書が必要となった。しかし、それに応えるものが無く、どうするか、検討されていた。

その時、最初に登場したのが、「猫イラズ」の本舗である(株)成毛英之助商店の出版物である。

この本は、「鼠の駆除法」指導員用、昭和22年12月発行、(株)成毛英之助商店、研究部と題されたものだ。

これは、市町村の技術吏員の研究会のテキストとして広く利用され、その功績は極めて大であった。ネズミと上手に接する手法を考究する上には、認識して置くこと、大変、参考になる。

この様な事績を参考にし、ペストコントロールの根源を原点に戻って考える時機である。

冬場のネズミ対策は、春先からの虫への対応を容易にする手段の一助である。ことに、食品類製造施設及び取扱関連施設などでは、「混入異物」の防止対策に極めて、有効な事ではある。

FOOD TABLE in JAPAN 2016

2016年2月10日(水) 11日(木・祝) 12日(金) 東京ビッグサイト 東西全館

特別招待券送付のご案内

皆様方の御支援とご愛顧のおかげをもちまして、「外食FOOD TABLE 2016」に出展させて頂く運びとなりました。つきましては本展示会の招待券をお送りさせて頂きます。

時節柄、ご多忙と存じますが、是非弊社の出展ブース(E3-220)へお立ち寄り下さいませ。社員一同、心よりご来場をお待ち申し上げます。

※注意事項

- ・同封しております招待券を会場にお持ちでない場合は有料(5,000円 税込)となります。ご注意ください。
- ・入場には1人1枚の招待券とお名刺が1枚必ず必要となります。
- ・本招待券の入場登録欄に必要事項をご記入の上、ご来場くださいますよう、ご協力お願い致します。
- ・会場周辺の駐車場が不足しておりますので、お車での来場は大変混雑が予想されます。公共交通機関をご利用下さい。

最寄駅までのアクセス



フードビジネスの起点! 小売・中食・外食業界の垣根を越えた商談展示会

「食」にまつわるあらゆる業種・業態の出展者・来場者が情報交換する場を提供することで、新たなイノベーションが生まれるきっかけを創り、日本の食産業の発展に貢献することを目的に開催します。



生活の豆知識

インフルエンザが流行する時期が近づきました!

秋から冬にかけては、インフルエンザが流行する季節です。

インフルエンザの原因となるウイルスは、大きく分けて、「A型」、「B型」、「C型」の3つに分類され、この内「季節性」のインフルエンザとして人の間で毎年流行を繰り返しているのは、A型のA/H1N1型(ソ連型)とA/H3N2型(香港型)、そしてB型のウイルスです。

2007/08シーズンから2008/09シーズンまではA/H1N1型(ソ連型)のウイルスが多くを占めていましたが、2009/10シーズンではパンデミック(世界的大流行)を引き起こした新型インフルエンザウイルスが、ほぼ100%を占めていた事が報告されています。

インフルエンザウイルスに感染した場合、約1~3日の潜伏期間の後、インフルエンザを発症します。続く約1~3日では、突然の38℃以上の「高熱」や全身倦怠感、食欲不振等の「全身症状」が強く現れます。

やや遅れて、咳や喉の痛み、鼻水等の「呼吸器症状」が現れ、腰痛や悪心(吐き気)等の「消化器症状」を訴える事もあります。通常は、10日前後で症状が落ち着き、治癒します。

普通の風邪は1年を通して見られますが、インフルエンザは季節性を示し、日本では例年11~12月頃に流行が始まり、1~3月にピークを迎えます。風邪の多くは、発症後の経過がゆるやかで、発熱も軽度であり、くしゃみや喉の痛み、鼻水・鼻づまり等の症状が主に見られます。

これに対し、インフルエンザは「高熱」を伴い、急激に発症し、全身倦怠感、食欲不振等の「全身症状」が強く現れます。関節痛、筋肉痛、頭痛も現れます。また、インフルエンザは、肺炎や脳炎(インフルエンザ脳炎)等を合併して重症化する事もあります。

インフルエンザの症状を改善する為には、体内にいるインフルエンザウイルスの増殖を防ぐ「抗インフルエンザウイルス薬」の服用が有効です。しかし、薬を服用して熱が下がっても、体内のウイルスがすぐに居なくなる訳ではありません。

「症状が改善したから...」と言って薬の服用を途中で止める事で、体内に残っているウイルスが周りの人に感染する可能性があります。熱が下がった後も、薬は最後まできちんと飲み切り、最低2日間は自宅で療養しましょう。

しかし、感染しないにこしたことはないのです。まずは予防接種を受け、外出の際はマスクをし、ウイルスの侵入から身体を守ることが大事ですね。